

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム 廣寿苑
所在地	今治市南大門町3-5-33
自己評価作成日	平成 21年 7月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 8月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔とった杵柄を大事にし、一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ、生きがいや喜びある日々が過ごせるように支援しています。又、本人の習慣や希望を大切に、その時々状況に応じた、個別性の高い外出支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが、「今ここで知り合えてよかった。幸せだった」と思える個別のケアを可能にするため、研修会や勉強会へ積極的に参加し、実践につなげている。利用者への丁寧な声かけや会話を潤沢に行い、ちょっとした仕草や言葉は介護記録に残しケアに活かすと共に、自分らしい姿を蘇らせている。人生の先輩として尊敬の念を持つことは接遇にも現れ信頼関係を一層深く心落ち着くホームを作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	社会福祉法人杉の子会 グループホーム廣寿苑
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	妹尾美地子
評価完了日	22年 7月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが送れるよう支援してまいります」というホームの理念と、「笑い声が聞え、美味しい食事の匂いがする」という活動方針を掲げ、共に意識しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) ホームの理念を基本に、各ユニットにふさわしい活動方針を全職員で考え利用者の満足に繋げている。法人の協力もあり職員の研修会参加の機会も多く、認知症の介護に必要な知識や技術を学び、利用者の喜び、職員のやりがいに結びつけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 公民館の行事、小学校の行事に参加させて頂き繋がりを持っている。施設前道路の掃除をし挨拶を交わし、少しずつ顔を覚えて頂き、積極的に日常的な交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 理念にも「誰もが気軽に立ち寄り～」と掲げ、地域に開かれたホームを目標に努力を重ねている。散歩や道路の清掃など一人ひとりの状態を考慮しながら地域の方との交流を図っている。また、ホーム主催の夏祭りなどの行事には地域の方に参加してもらい交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所での実践内容を踏まえ、家族会や推進会議などにおいて認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族、利用者、民生委員、高齢介護課の方々の参加があり、専門的な意見交換やサービスの向上に活かされる話し合いが持たれている。	
			(外部評価) 全職員で時間をかけて取り組んだ自己評価や外部評価の結果など報告している。民生委員・自治会長・公民館長・市の高齢介護課の方などが出席し、活発な意見交換がなされ、詳細に記録を残しいつでも紐解くことができる。管理者は各分野の専門家の意見を聞くことができるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村には、介護保険関係で出向く機会が多くあり協力が得られている。又、推進会議メンバーに高齢介護課職員の参加も頂き、考え方や実態を市町村担当者によく知ってもらい、それらを共有している。	
			(外部評価) ケアプランの更新時には高齢介護課へ提出している。運営推進会議の議題を提案してもらったり、訪問調査でお世話になったりしている。包括支援センターとの繋がりも大切にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内で身体拘束廃止委員会を設け勉強会を定期的に行っており、全職員が拘束しないケアを目指し取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束廃止委員会を平成22年度より立ち上げている。「身体拘束とは何か」ということから勉強している。玄関は18時30分から7時30分までは防犯上のため施錠している以外は開放している。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内で虐待防止委員会を設け勉強会を実施し、正しい理解を持ち虐待が見過ごされることのないよう、職員間で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 「成年後見制度」「福祉サービス利用援助事業」に関する研修会の参加をし、又、年間計画の勉強会にも取り入れ、理解を深めるようにしている。現在2名の利用があり、安心して活用できるよう関係機関と協力体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約においては、主に事務所、管理者が家族に十分な説明と話し合いを行い、理解納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や家族会、カンファレンスなどで利用者の状態報告をさせて頂き、本人や家族の意見、意向をお聞きしながら運営業務に活かしている。又、玄関には投書箱を設置している。 (外部評価) 家族からの意見や要望を積極的に言ってもらえるような雰囲気作りができています。家族会での食事会では利用者の生活状況を伝えたり、遠方の家族には手紙を送るなどの取り組みがされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや勉強会、研修参加時など行動を共にする機会を設け、話を聞くようにしている。 (外部評価) 厳しさの中にも優しい笑顔の絶えない管理者は、職員からの信頼度も高く職員は何でも話し合うことができる。意見や相談はホームのケア向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力や成果について把握し、やりがいや向上心を持って働けるよう職能評価を行い、資格取得に向けての支援も行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の質の確保、向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を計画的に確保している。又、研修案内は、事務所やホーム内に提示し参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修には毎年1名は参加し、同業者の月1回実施されている学習会（グループホーム連絡協議会主催）にも参加して、交流を図りサービスの質向上を目指している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話をよく聴き、おかれている状況や苦しんでいること困っていることなどの把握をし、本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時に本人やご家族の思いや状況等を再確認し、サービスの開始となる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活を共にする事で家族のような関係作りを目指し、人生の大先輩であるということをおきながら接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの情報共有に努め、家族と同じような気持ちで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の生活習慣や、大切にしてきた馴染みの人や場所との継続が出来るよう努めている。 (外部評価) 管理者は「馴染みの人や場との関係継続の支援」が認知症ケアの大切な部分であると考えている。ドライブで懐かしい思い出の小学校へ行ったり、家族の協力のもと美容室に行ったり、姉妹に逢ったり、利用者の喜びは絶えない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの特徴をしっかりと把握し、仲の良い利用者同士が協力し作業を行ったり、コミュニケーションが図れるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も入院している利用者を面会したり、家族が相談に見えたり、都度必要なサービス、適している施設の紹介を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段からコミュニケーションをしっかりととり、月1回のモニタリング実施、又、家族参加の下3ヶ月に1回カンファレンスを実施し、本人が理解できる方法で意見確認をしながら、希望が実現となるよう努めている。 (外部評価) 介護記録には、利用者の「ことば」を書き入れ、訴えや行動を細かく知ることができ思いの把握にも役立っている。思いを伝えることの困難な利用者は、日々の関わりから思いを汲み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの私物を居室に置き、使いやすく親しみのある環境作りに努め、センター方式B3シート（私の暮らし方シート）を活用、ご家族の協力を頂き、生活歴、馴染みの暮らし等を把握しながら、それが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 食事、睡眠、排泄、活動などは、個別チェック表を作成し、毎日のバイタルチェックの実施、心身の観察をしながら個々の体調変化の早期発見に努めている。又、できること、わかる力を暮らしの中で発見しながら、一人ひとりの1日の生活リズムを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1度のモニタリング、3ヶ月に1度のアセスメント・カンファレンスを実施し、本人ご家族からの要望を話し合い、その人らしい生活が送れるよう介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 介護計画は1か月の短期目標、3か月の長期目標を作成し、介護記録記入の際いつも確認できるファイルになっている。毎月ケアプランに対しての評価を行い、家族のサインをもらっている。介護経過・評価表(家族の意見や要望を聞くための書類)は、次のケアに続く大切な記録といえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに沿った個別チェック表を作成、実施しながら新たな気づきを個別記録に記載している。又、朝・夕の申し送りや日々の業務の中で情報を共有し、それらを基に介護計画を見直し、評価の実施を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に応じて職員間の異動をしたり、医療連携体制を活かして月2回の往診の協力があり、受診、通院、送迎など、その時々状況に応じて柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事の参加、ボランティアの訪問を設定したり、地域資源を活用しレクリエーションを通じて交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 家族、利用者の希望を聞きながら、かかりつけ医や救 急の搬送病院を決めている。又、家族同行時には、生 活状況が医師にわかるよう介護要約記録を提供し、適 切な医療が受けられるよう支援している。家族が都合 つかず協力できない場合は、看護師が同行している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族にとって安心できる医療機関に受診でき るよう支援している。月2回の協力病院による往診も ある。定期的な受診は、家族の協力を仰いでいる。健 診のデータを利用者や家族と共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状 態変化に応じた支援が行えるようにしている。利用者 の異常の早期発見に努め、看護師、管理者、主任に報 告でき、対応できるよう勉強会を実施している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には介護サマリーを提供し、回復状況を見なが ら医療機関と連携を取り、退院支援に結びつけてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関する指針に添って、事業所としてできるこ との説明を家族会やカンファレンス時、面会時に行い 理解と同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 看取りの経験は今までにない。看取り(重度化)に関す る指針には考え方・視点・具体的支援内容など明記さ れている。できる限り最後まで過ごせるよう受け入れ は整っている。ホームとしてできること、できないこ とはっきり家族に話している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に備えて勉強会で検討し、事故を未然に防げるよう取り組んでいる。又、事故発生時には、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、今後の対応策を検討して全職員が共有している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練の実施や、研修会にも参加している。又、全職員が消火器の位置や避難経路を確認し、推進会議では地域との協力体制を話し合い検討している。 (外部評価) 訓練は法人全体で年1回とホームで年2回行なっている。難聴の人は、サイレンの音が聞こえないとか移動の手段(独歩・車いす・つえ歩行・介助歩行)で分類し、業務日誌には利用者の状態が一目で分かるよう記載している。IHの電化住宅になっているが、換気扇の掃除を定期的にするなど細かい火災予防を行なっている。	地震時の避難訓練では、地域に還元・貢献できることもあり、より一層地域との関わりを深めながら、高いレベルの訓練が実施され続けることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を心がけている。又、職員が発している言葉や語調などを注意し合い意識向上を図っている。 (外部評価) 呼び名や声かけは、利用者一人ひとりにとって一番心地良いものになっている。利用者を大切にしている全職員の思いは、明るい笑顔などの表情や態度からもうかがうことができる。職員間でよりよいケアをするために注意し合う関係が構築されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 共に過ごす中で利用者の希望、関心、嗜好などの見極めをし、それらを基に日常生活の中で本人が選びやすいよう声掛けゆつくり待ち、自ら決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望やペースに合わせて1日が穏やかに過ごせるよう時間を調整したり、工夫しながら柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出向いたり、訪問理容を活用している。又、お化粧の好きな利用者には、道具を用意し毎朝ご自分でお化粧をして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事一連の作業は、利用者個々の力に合ったものを提供し、自身の喜び生きがいに繋げている。又、利用者の希望により献立の変更をし、季節の物やホーム内の畑で採れた食材を利用しながら、食事が楽しいものとなるよう努めている。 (外部評価) 献立は、法人の栄養士が作成している。頂き物の野菜や魚は、臨機応変に献立に盛り込むことができる。季節の食べ物などを取り入れ、利用者にとって一番楽しみな時間になるよう心がけている。利用者にも無理のないよう手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士作成の献立表を参考に、バランスの良い食事提供を心掛け、1日の水分、食事量の個別チェック表を作成しカロリー過不足や水分不足が起こらないよう意識を持ちながら支援している。また、定期的に体重測定を行い、運動量の調整をしながら健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、自立している利用者へは声掛け、見守りにて口腔ケアを行い、困難な利用者はモンダミンなどでうがいをして頂いている。又、必要な方へは、歯科往診を受けて頂き、週1回は歯ブラシやコップの消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者の兆候や個々の排泄パターンを把握し、前誘導を行ったり、排泄用品の使い分けをしている。又、日中は、布下着や小パットで不快なく過ごせるよう、可能な限りトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに合わせ、トイレ誘導・排泄ケアを行なっている。排泄後は、ホットタオルや洗浄ピッチャーを使って清潔を保っている。日中は、布オムツとしているが、ケースに合わせ、紙パンツを使用するなど細かい配慮をしている。夜間の安眠を第一に考えた支援も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の際には、牛乳やセンナ茶を飲用して頂いたり、腹部マッサージや運動を施行している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室内を造花やシール等で明るく飾りつけ、楽しい場所となるよう工夫し、夜間入浴や個々の状態に応じて自由に入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 入浴は夜も可能である。入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声かけを行うなど入浴を楽しんでもらえるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量の調節をしながら、休憩も取り入れ個々にあった1日の生活リズム作りをしていく、アプローチを行っている。又、就寝に向けてリズムが安定するよう、夕食後飲み物を提供し、テレビ鑑賞や雑談などでゆったり過ごせ安眠に繋げる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師の指導の下、薬ノートを作成し、用法や用量などが誰にでもわかるようにしている。又、身心の変化に伴う報告を看護師にし助言をもらい、看護師はそれらの内容を医師に上申、アドバイスを頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔とった杵柄や体で覚え込んだ記憶を見出し、一人ひとりの有する力をふまえた、役割や楽しみなどを作り出す支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出場所は、可能な限り個々の記憶に添ったものを提供し、気分転換やストレス解消となるよう努めている。又、少人数での外出や、計画に基づくユニット全員での外出機会も設け支援しているが、家族の協力は、同一の利用者が多い。 (外部評価) 葡萄やいちじく狩などに行ったり、島なみ海道の橋がよく見えるホテルでお食事をしたりと趣向を凝らして外出している。また近くの図書館に本を借りに行ったり、市民の森の鯉に餌をやったりと日常的な外出支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは金庫へ保管しており、外出時に持参し希望するものを購入したり、支払いは個々に応じて見守り・介助を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、希望に応じて取り次ぎをしているが、手紙においては、書くことを苦手とし拒否される利用者が多く、年賀状を送る程度である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や居間には季節の花や壁面を飾り、季節感が持てるよう工夫している。トイレや浴室は、常に換気を行い清潔にし、不快感を与えないよう心掛けている。	
			(外部評価) ユニットごとに特色を活かしたくつろぎ空間である。玄関のいすには、利用者手作りの座布団が置かれている。明るさや空調にも気を使い、快適に過ごせるような環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の隅には一人で過ごせる場所を設けたり、フロア内にはソファを置き、一人でTVを観たり、横になって休んだり、仲の良い利用者同士でくつろげる空間作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みのある家具や、親しみある写真、人形を持ち込み、住み慣れた環境に近い状態になるよう工夫している。	
			(外部評価) 個性を尊重した自由で快適な居室になっている。ダンス・仏壇・いす・机・鏡台・神棚・季節ごとの衣類など使い慣れた物品が家族の協力を得て持ち込まれ、利用者にとって居心地のよい場所になっている。布団は、感染防止を重視しリリースしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「できること」「わかること」を活かし、看板やポスターを取り付けたり、手すりや家具の配置に工夫をして安全な環境整備に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム 廣寿苑
所在地	今治市南大門町3-5-33
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 8月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何気ない一言！もの言わぬ表情の変化を見逃さず、本人の「できる力」や「わかる力」を暮らしの中で発見し、個別記録に有のまま記入して、実践、介護計画の見直しに活かしています。又、誰もが「ここにきてよかった、皆に会えてよかった」と思ってもらえるような支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが、「今ここで知り合えてよかった。幸せだった」と思える個別のケアを可能にするため、研修会や勉強会へ積極的に参加し、実践につなげている。利用者への丁寧な声かけや会話を潤沢に行い、ちょっとした仕草や言葉は介護記録に残しケアに活かすと共に、自分らしい姿を蘇らせている。人生の先輩として尊敬の念を持つことは接遇にも現れ信頼関係を一層深く心落ち着くホームを作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 社会福祉法人杉の子会 グループホーム廣寿苑

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)
氏名 妹尾美地子

評価完了日 22年 7月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「誰もが気軽に立ち寄れ、喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが送れるよう支援してまいります」と言うホームの理念と「楽しい歌声が響き、皆の笑顔がある」というユニットの活動方針を新たに決め、共同生活が気兼ねなく楽しく送れるよう、日々話し合い実践している</p> <p>(外部評価) ホームの理念を基本に、各ユニットにふさわしい活動方針を全職員で考え利用者の満足に繋げている。法人の協力もあり職員の研修会参加の機会も多く、認知症の介護に必要な知識や技術を学び、利用者の喜び、職員のやりがいに結びつけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物は、近所のスーパーやお肉屋さんに出向き、小学校や公民館行事にも参加させて頂き、地域交流に努めている</p> <p>(外部評価) 理念にも「誰もが気軽に立ち寄れ～」と掲げ、地域に開かれたホームを目標に努力を重ねている。散歩や道路の清掃など一人ひとりの状態を考慮しながら地域の方との交流を図っている。また、ホーム主催の夏祭りなどの行事には地域の方に参加してもらい交流をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会議や家族会の中で、認知症に対する理解を持って頂けるよう努め、又、職員同行の散歩を実施し、近所の人達に挨拶をするよう心掛けている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容を報告し、意見を頂いたり、新しいメンバーの参加を頂いて、サービス向上や、地域との関係性を広げるために努力している	
			(外部評価) 全職員で時間をかけて取り組んだ自己評価や外部評価の結果など報告している。民生委員・自治会長・公民館長・市の高齢介護課の方などが出席し、活発な意見交換がなされ、詳細に記録を残しいつでも紐解くことができる。管理者は各分野の専門家の意見を聞くことができるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に高齢介護課職員の参加を頂き、その場も含めて報告・連絡・相談を行っている	
			(外部評価) ケアプランの更新時には高齢介護課へ提出している。運営推進会議の議題を提案してもらったり、訪問調査でお世話になったりしている。包括支援センターとの繋がりも大切にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には拘束はしないケアの実践に取り組んでいる。又、介護に対する基本的な姿勢を身につける事の意識付けをしている	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束廃止委員会を平成22年度より立ち上げている。「身体拘束とは何か」ということから勉強している。玄関は18時30分から7時30分までは防犯上のため施錠している以外は開放している。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は、絶対あってはならない人権侵害である事をミーティングでの勉強会のテーマとし、見過ごしのないように職員間で取り組んでいる	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修の参加及び勉強会を開き、内容の把握・必要性を学び、活用するよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者と家族・事業所で十分な説明、話し合い、不安、疑問点、要望をお聞きし、安心して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や推進会議の定期開催時、又、ケアプラン評価に対して意見、要望を頂く欄を設けている。又、玄関には苦情箱を設置し、意見や苦情が出しやすいよう働きかけている (外部評価) 家族からの意見や要望を積極的に言ってもらえるような雰囲気作りができています。家族会での食事会では利用者の生活状況を伝えたり、遠方の家族には手紙を送るなどの取り組みがされています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同ミーティングを行い、管理者・職員間の意見交換をし、最良の意見が出るよう取り組んでいる (外部評価) 厳しさの中にも優しい笑顔の絶えない管理者は、職員からの信頼度も高く職員は何でも話し合うことができる。意見や相談はホームのケア向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 要望に柔軟な対応ができるよう勤務調整をし、勤務シフト上も無理のない勤務になるよう、工夫しながら利用者の変化に対応できるよう努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会への参加を優先的に行えるよう取り組んでいる。又、研修後の報告、勉強会を実施し、自分を高め向上心に繋げている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会に参加し、その場で他施設の方とも意見交換や情報交換を行い交流を図っている。又、年1回、相互研修に1名参加している	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 会話の中から口癖など何気ない一言にも気を止め、不安や思いに早く気付けるよう努め、管理者に相談し安心し穏やかに日々暮らせるよう努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時には、不安なく生活できるようにしっかりと話しをし、サービスの方向性を決め、必要なサービスが提供できるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時の本人、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 教わる事も気付かされる事も多く、日々自分自身も成長し喜び楽しみを共にしながら、互いの関係性を築く努力をしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いを聞いた上で、全職員が統一したケアを行えるよう努力し、家族様の無理のない範囲で、行事参加や面会を促している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人を取り巻く人や、支えてきた人達との関係が途切れないよう、出かけて行く事を積極的に作っている (外部評価) 管理者は「馴染みの人や場との関係継続の支援」が認知症ケアの大切な部分であると考えている。ドライブで懐かしい思い出の小学校へ行ったり、家族の協力のもと美容室に行ったり、姉妹に逢ったり、利用者の喜びは絶えない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) カラオケやレクリエーションを通して、利用者同士が関わりあえるよう環境作りに努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も築いた関係を大切にし、相談にのり適切なアドバイスが送れるよう繋がりを持っている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 食事や入浴中に、何気なく話した会話の中から思いを知り、カンファレンス時には希望、要望を聞き把握できるよう努めている	
			(外部評価) 介護記録には、利用者の「ことば」を書き入れ、訴えや行動を細かく知ることができ思いの把握にも役立っている。思いを伝えることの困難な利用者は、日々の関わりから思いを汲み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境シートを活用し、家族さんや本人から聞き取りケアプランに取り入れ、毎月評価を行っている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 夜間の睡眠状態、毎朝のバイタル測定や普段と違う言動、行動の観察を行い、不安な時は特に気をつけながら目配り、気配りを行っている。又、毎日の申し送りで全職員が状況把握に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員が利用者の個々の担当をし、月1回の評価と3ヶ月に1回実施しているカンファレンスに臨み、本人・家族の意見や要望を聞き反映させるようにしている (外部評価) 介護計画は1か月の短期目標、3か月の長期目標を作成し、介護記録記入の際いつも確認できるファイルになっている。毎月ケアプランに対しての評価を行い、家族のサインをもらっている。介護経過・評価表(家族の意見や要望を聞くための書類)は、次のケアに続く大切な記録といえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録には、ケアプラン以外にも日頃の様子や何気なく発した言葉も記入し、職員間で情報共有しケアに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況を判断し、急病による病院受診、通院など必要な援助は柔軟に対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館で本を借りたり、近くのスーパーや衣料店に買い物に行き楽しく生活している。又、小学校での行事に参加し地域住民の方とも交流している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 以前より利用しているかかりつけ医での医療が受け れるよう協力し、看護師による要約記録を持参して頂 き、かかりつけ医との関係が築きやすいよう支援して いる	
			<p>(外部評価)</p> 利用者や家族にとって安心できる医療機関に受診でき るよう支援している。月2回の協力病院による往診も ある。定期的な受診は、家族の協力を仰いでいる。健 診のデータを利用者や家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 毎朝のバイタル測定の実施、表情の変化の発見に努 め、看護師へ報告、指示を仰いでいる。又、申し送り などでそれらを共有し、実践できるよう努めている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時には、介護サマリーを病院に提供している。 又、看護師・管理者・主任が見舞いに行き、病院とも 情報交換を行なっている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 普段からの会話の中で家族と本人の関係、又は、本人 の希望、環境条件の中で、本人にとって一番良い形を とれるよう心掛けている	
			<p>(外部評価)</p> 看取りの経験は今までにない。看取り(重度化)に関す る指針には考え方・視点・具体的支援内容など明記さ れている。できる限り最後まで過ごせるよう受け入れ は整っている。ホームとしてできること、できないこ とをはっきり家族に話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に備えて勉強会で検討し、事故を未然に防げるよう取り組んでいる。又、事故発生時には、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、今後の対応策を検討して全職員が共有している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練の実施と、普段から消火器の位置、避難経路などを確認するようにしている (外部評価) 訓練は法人全体で年1回とホームで年2回行なっている。難聴の人は、サイレンの音が聞こえないとか移動の手段(独歩・車いす・つえ歩行・介助歩行)で分類し、業務日誌には利用者の状態が一目で分かるよう記載している。IHの電化住宅になっているが、換気扇の掃除を定期的にするなど細かい火災予防を行なっている。	地震時の避難訓練では、地域に還元・貢献できることもあり、より一層地域との関わりを深めながら、高いレベルの訓練が実施され続けることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者は人生の先輩という理念をモットーに、自尊心に配慮しながら言葉使いや対応をしている (外部評価) 呼び名や声かけは、利用者一人ひとりにとって一番心地良いものになっている。利用者を大切にしている全職員の思いは、明るい笑顔などの表情や態度からもうかがうことができる。職員間でよりよいケアをするために注意し合う関係が構築されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 服を選んだり飲み物を選んだり、少しの事でも本人が決める場面を作り、無理強いせず、ゆっくり関わられるよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを大切にし、入浴時間、起床時間、就寝時間をなるべく希望が叶えられるように支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服を選んだり口紅の色を選んだりし、日頃から楽しみながらおしゃれができるよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人の能力を把握し、野菜の下準備や片付け等の協力をして頂き生活感を持ってもらう。又、月2回の自由食の日を持ち、好みを聞きメニューに取り入れている (外部評価) 献立は、法人の栄養士が作成している。頂き物の野菜や魚は、臨機応変に献立に盛り込むことができる。季節の食べ物などを取り入れ、利用者にとって一番楽しみな時間になるよう心がけている。利用者に無理のないよう手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の嚥下状態・栄養状態・既往歴を踏まえ調理を行い、水分摂取量については、摂取記録に基づき不足しないよう実施している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者個々のレベルに沿ったケア方法で実施できている。又、歯科受診者はその都度、歯科医からアドバイスを受け対応し、歯ブラシやコップも定期的に消毒を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄については、管理者指示のもと日々の中で勉強し、知識、理解を深めその人にあった排泄用品を検討し、日中はできる限りトイレでの排泄を試み、不快なく過ごせるよう支援している	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに合わせ、トイレ誘導・排泄ケアを行なっている。排泄後は、ホットタオルや洗浄ピッチャーを使って清潔を保っている。日中は、布オムツとしているが、ケースに合わせ、紙パンツを使用するなど細かい配慮をしている。夜間の安眠を第一に考えた支援も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人のノートを作成し、便秘に対する対処薬を記載しているが、服薬には頼らず寝起きによる水分摂取等で活腸対策、繊維摂取等を行っている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日準備できており、個人の希望ペースに合わせて、健康状態確認のうえ週2回以上は入浴している。拒否される方に関しても時間や職員の変更をしながら、気持ちのよい入浴ができるように努めている	
			(外部評価) 入浴は夜も可能である。入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声かけを行うなど入浴を楽しんでもらえるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は無理のない作業提供をし、夜間の安眠に繋げている。又、眠れない時は、フロアで話をしたりお茶を飲んだりしながら就寝できるよう配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服薬管理ノートを作成し、誰もが用法・用量の確認が出来るよう活用している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔の仕事、好きだった事を会話の中や仕草などから聞き取り、レクリエーションや軽作業等で取り入れ喜びや生きがいとなるよう努めている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 小人数での外出・外食などを計画し、好きな物や馴染みの場所を把握し、希望に沿った外出支援を行っている	
			(外部評価) 葡萄やいちじく狩などに行ったり、島なみ海道の橋がよく見えるホテルでお食事をしたりと趣向を凝らして外出している。また近くの図書館に本を借りに行ったり、市民の森の鯉に餌をやったりと日常的な外出支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 欲しい物等、希望を聞き職員同行で買い物に出かけ、レベルに合わせた支払い方法を取っている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、本人希望時と家族の状況を把握し、双方無理のない時に行えるようにし、便りは、年賀状を出す程度である	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 過度な温度管理を避け、空気の入替え時による外気温を感じてもらっている。又、壁面装飾やカレンダーの目めくりを置き、その時節の会話をし季節を感じてもらっている	
			(外部評価) ユニットごとに特色を活かしたくつろぎ空間である。玄関のいすには、利用者手作りの座布団が置かれている。明るさや空調にも気を使い、快適に過ごせるような環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間で他の人の気配を感じながらも、一人で過ごすことができるよう廊下の隅や玄関に椅子を設置し、くつろげるスペースを確保している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使っていた物などを持ち込み、家庭と同じように落ち着いた生活ができるように配置している	
			(外部評価) 個性を尊重した自由で快適な居室になっている。ダンス・仏壇・いす・机・鏡台・神棚・季節ごとの衣類など使い慣れた物品が家族の協力を得て持ち込まれ、利用者にとって居心地のよい場所になっている。布団は、感染防止を重視しリリースしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 認識しやすいよう目印をつけたり、本人の考える力や「わかること」「できること」まで奪ってしまわぬよう自立支援している	